第２４号
校長　田之上典昭

「友を選ばば　書を読みて」

校内読書週間が１２月３日から始まりました。
学校行事の関係で２０２１年全国読書週間からは，少し遅れてのスタートとなりました。

２０２１年読書週間の標語が「最後の頁を閉じた　違う私がいた」でした。作者の緑川良子さんは，「没頭できる本に出会うと，読み終えてもすぐに現世に戻れません。しばらく宙に浮いたような感覚のあと我に返っても，読む前とは確実に何か変わっています。そんな出会いをいつも楽しみにしています。」と言っています。

緑川さんと同じような内容の話を聞いたことがあるなと思い返していたところ，本年度の入学式でＰＴＡ会長が読書の大切さのことを話していたのを思い出しました。

留盛前会長の挨拶の中で「自分でリアルに体験できない人生が，本には一杯詰まっています。本をとおして様々な疑似体験が出来ます。その中で人生力を学んでいくのではないかと思っています。高校３年間のうちに，たくさんの本を読んで欲しいなと思います。いろんなジャンルから自分に合った本との出会いが必ずあります。豊かな高校生活を送ってください。」という新一年生へのメッセージでした。

歌人の与謝野鉄幹は，「友を選ばば　書を読みて　六部の侠気　四分の熱」と歌っています。友だちを選ぶなら本を読む人　思いやりがあり　一緒に感動してくれる人が良いということでしょうか。

是非，この期間にスマホから離れて学校図書館はもちろん，自宅近くの図書館や本屋に立ち寄ってみてください。統一ＬＨＲのブックツリーづくりでは，心に残ったフレーズを見つけて，みんなに紹介してください。

私は，最近，昔読んだ高橋三千綱著『九月の空』を読み返しました。あの時は，主人公のような高校生になりたいと，とても感動した記憶がありましたが，時が過ぎ，今回は，はじめて読んだ時と少し違った感動を覚えました。これも，本の楽しさかもしれません。